寛永諸家譜

清和源氏己三冊之内

頼季流

36

内閣文庫
番號 和 20199
冊數 186 (36)
函號 特 76 1

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

赤井
須田

寛永諸家系圖傳

清和源氏
頼季流
赤井
別て葦田を号す

己二

頼信
河内守

浅草文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

頼義
伊豫守
頼清
肥後守
仲家
筑前守
光清
盛國
村上判官代

頼季
掃部助
淺實
井上源助
判官代
吉光
判官代
大掘の祖
丹後ふちのぐち

教定
大掾志郎

教定
押領使

重光

實重
源大夫

安海
大炊助　判官代
丹後ノ流カ

葦田祖

道家
大夫　宗ヲ名ハ道康
丹後守國ル押領使

家業
三郎

忠家
葦田判官代　同押領使

家範
同八郎

政家
同太郎左衛門尉　同押領使

家弘
彩左衛門尉　同押領使

政親
三河の国衆　義久合戦ゝ命と

國家

兵衛太郎

家廣

右衛門尉　同押領使

家元

末代丸

家浦

次郎兵衛尉　同押領使

基家

太郎右衛門尉　同押領使

胡家

同八郎　兼久　没収ぢちう

家貞

泳二郎

秀家

又郎

拓家

又五郎　久兵衛

時範

小右兵部の丞

氏家

黒鬼八郎　西方田丽

為家

赤井九郎　法名弘願

父の家冊波を以て為家に譲れ

よって自然のゆづり状あり

家義

太郎　法名真敬

基氏

又次郎　法名妙願

多々良浜合戦の時弓氏将軍に志し

かしこく軍功あるにより二引両紋

をたまはれり

清義

九郎　法名樹願

清氏

文四郎　左馬頭

泰連

又次郎

家直

兵庫助　法名善周

正家

二郎四郎　法名善頼

助家

左京亮

家貫

左京亮　法名善柱

後家

次郎三郎の母

正家

左京亮

貞家

勝次郎　仁の底丸小博打おかく

討死

正貞

盛安
十郎左衛門尉 播磨牧野にて討死

安照
筑後守

信安
源次郎 中うにて討死

其
孫七郎

祐安
筑前守

等安
播磨牧野にて討死

其
孫九郎 天田郡七所にて討死

家継
[illegible]

家清
五郎　弓氏ノ旗ヲタマフ

季家
六郎

基清
又三郎

家国

家京
孫四郎

貞家
三郎五郎　右衛門尉　法名永覲

国家
式部　法名道幸

国立公文書館
National Archives of Japan

時家

十郎左衛門

久家

五郎左衛門

法名永通

家長

民部

清家

國家

孫六

宗家

左衛門

小二郎

國家

治部左衛門

家義

五郎次郎

法名自妙

元家

古清門番

家季

与助次郎

忠家

東門番

法名妙善教

氏家

又次郎

法名字義

重家

与庫助

業

隆家

又二郎

又五郎

久家

二の関寺

安家

長左衛門

基家

八郎　法名実乗

家房

ちゃうの郎

秀家

其

ちゃうの郎

賢忠

源八

三位　神池寺

仁王堂坊

宰相　安楽ちゃう中坊

親家

左衛門尉　法名良悟

国立公文書館
National Archives of Japan

運家
源三郎

光家
源太郎

氏家
又右衛門
某

某
源吉郎

某
源七郎

与九郎

時家
越前守
関右氏にて
丹後国をとり播州

三本にたれしくこれを投矢をおこし丹後
國よりわ葦田孔烏帽子山より陣を
もうて因幡ふの國敵をうつ投葦
田孔毛ふ因幡よりみくく時安ふ
神尾村てたかゝ時家力戦して
みつゝ敵孔首をとれこの少ゝ
因幡敗北すこゝ因幡毛をとり
てれたかゝ以へも時安数度勝負
と決してたゝ因幡法雲をうちと

長家
治部大輔
長正
中務大輔
天田新次郎書にしてなく討死

て丹後を領ず
天正九年又月八日八十歳にて死
法名お休

君家

久家の祖

惣家

源太兵衛

某

源三　久下瀧村と号す

家清

兵衛太夫

数々の戦功あり

弘治元年家清三十一歳の時同国葦田

同国と見を指太兵衛と乱をこし四

五千の兵を引かゝる良村に陣を

もつ時家清手惣三百人

数々葦田見をふせと討ふ時惣清

疵をかうむりて小腹もせられたり

て痛こはなはだ　弘三年　弘治

三年二月七日三年に成て死

法名浄芳

亜正

亜右衛門尉

某年の頃の男萩聖氏頃亜正の兄

亜法師たしに謀叛をくわたつる死

亜正萩聖と共に西海道

に号す

高良村合戦の時亜正十二ケ所の疵を

かうり山家

天正六年二月九日五十歳にて死

法名常休

幸安

新八郎　弟新九郎　生国丹後

某長十一年四月八日伏見にて病死

法名釣月

章長

母方祖父　生國同所

左衛門尉殿御代

東照大権現様御代　約命に

与力酒井左衛門忠次殿　屋敷

三河小笠原左近将監殿

信州上田に於て討死時分二十

八歳

貴成

石川孫左衛門　系図別紙あり

義章

七郎兵衛

寛永七年

右徳院殿

御軍法者

生國上野

時勝

太郎兵衛　生國丹後

寛長十六年三月七日大和ニ

病死　法名常圓

時政

生年未詳　生國不詳

寛永三年

将軍家へ御目ハ

某

太郎三郎

某

継子代

時重

弥平兵衛尉　生國丹後

浪人ニ成て京ニ住松ヶ浦

大捨現ヲ有ル事ハ

大捨現ヲ下ル所書二通あり

[illegible]

[illegible]使者被[illegible]越[illegible]

被[illegible]祥[illegible]法[illegible]被[illegible]

[illegible]本[illegible]

[illegible]

[illegible]

十一月三日　家康

[illegible]田弥平[illegible]

就[illegible]国[illegible]拓子使[illegible]拓越[illegible]

細[illegible]抑今度[illegible]

一揆[illegible]紀[illegible]城[illegible]

[illegible]弥何[illegible]

信雄[illegible]

[illegible]抽[illegible]忠[illegible]

及合戦池田猪入父子二人[illegible]森

武蔵[illegible]久[illegible]

三好孫[illegible]大[illegible]

十人余の手に一万俵計下り申候
業仕り申候ハ、一人進発
軍日不相附申候ハ、眼前
糸屋方之事
説に成り申候

卯月十日　家康

蓮田源平兵衛尉殿

追而御述の事自前に被相
把申候ハ、彼方新地に
事義に掛り来り有之候
糸屋一家抽忠義に
失敗仕り候
細に和合

卯月十四日　家康

蓮田源平兵衛尉殿

右の御書同時に
被一通成れ
多年八忠勝

寛永十一年八月十四日病死七十七歳
法名常安

時長
太郎左衛門尉
生國同所
左近衛殿ゟ法名を給て後に市城の
市書と号し
寛永十三年八月朔日死年来
法名常真

時次
持長嫡子 生國三河
左近衛殿ゟ法名を給
元和九年 病死

時喜
持長嫡子 生國武州
寛永十一年ゟ
初軍家へ出て

時重

孫平兵衛尉　生國武州

祖父時直ゞ養子ゝ成ル

寛永十三年

御軍役ヲ勤ル時直ヲ法ヲ受

時香

五平次　生國同ク

寛永七年六月者

御軍役ヲ辞シ

忠家

五郎　生國丹後

永禄七年忠家十六歳ニ成ル丹後ヲ国

井清ヲ[illegible]ク内藤備前守ト合戦の

ときも[illegible]ヲ敵ト対[illegible]

自分ハ[illegible]

忠家義年此時父子ともに少へ候
並正ス国の事をおろかにせず
忠家丹後の奥三郎を領し信長朱印
をたまわる

丹後國奥三郎のくにんの儀たうちきりに被仰
付幣帛を献ず依為自然合
須知ス事を相遂し忠節
永禄十三
二月日　信長朱印

蒔田出雲守殿
去年忠家ことし合戦
とおわり丹後ら拾郡但馬郡未郡をうち
たいらぐ此時丹後のうち三郎と波多
野と絡みこれと領して波多野が
男共家なりゆへ赤井波多野共
家合體ス忠家日向守光秀
織田七兵衛尉信澄信長下知をうけて
丹後へ赤井波多野

去歳の冬以来こしをやぶり弥を國を
まもりたまひ光秀信濃に及び毋没り
乱いりて大に勝利をなすりたるのとき
没毋聖敗亡す翌年忠家ひろ毋没
たまふ
居す
文禄元年高麗陣の時秀吉ちめ
出たまふ来花子石をたまふ
秀吉薨しては伏見の屋敷に
大指現と為しなれ
慶長五年関原陣陣中
大指現にて志ゐ
石加増をたまはる
同十年四月廿九日伏見にて薨去五十七歳
法名宗圓

忠泰

一名尹勝　出仕　を仕る　名庫沢

秀吉乃ち忠泰十四束五束を相馬
信濃守の名代伊達政宗に
大指現へ御同見いたし十七歳にて
つかまつる
慶長七年知行千石拝領す
同八年
大指現将軍宣下の時従五位下に叙し
侍従に任ず
忠泰死去の後ち此の節二千石
をたまはりて忠泰が代ゝ不孝千石を
弟久雄に下さる
大坂安倍御陣
大指現の供奉す
元和三年
右近院殿天皇と御再興の時行桐立膳
と忠泰とふ善信寺を仰付られ
仮御書ことたる

公雄

[illegible]
父忠家死去の時二千石を兄
尹勝に下されしかども尹勝の弟子
石と
大権現の御命ずるに公雄これを領す
十歳の時
大権現と奉り十四歳にて後府
[illegible]

寛長十九年大坂陣の時供をせ
ず
石淵院殿
将軍家と奉り[illegible]

公久

[illegible]助
実は尹勝大臣氏の子なれども男公
雄子なれば赤井氏とせず十五

歳の時

初軍役を勤

寛永十八年より御書院番を勤む

忠秋

正保元　又恒元年

家督を継ぎ後府を賜わる

大猷院様より甚深なる

台徳院殿へ御十九年より御書

を授ける

家紋右金開雁金

国立公文書館
National Archives of Japan

須田

正光

大隅守　生國信濃

位列次坂の城をもわて武田信虎

法名正光

盛友

肥前守　生國同おな

伝庇に住ス

盛義

兵部　生國甲州

信玄ニつく

盛永

右近　生國同

勝頼ニ住ス

天正十年

東照大権現ト為ル

寛永元年九月廿四日死ス時ニ八十

二歳

盛清

平太郎　生國同

天正十年甲州没落ス

大権現ト為ル

同十八年小田原陣に伺ふ

慶長五年関原陣に伺ふ

右遠境殿へ参り大御書を賜ひ

うけ奉り市杖木奉行となり又御

代官を勤め給ふ

将軍家へ参上仕へ給ふ

寛永十五年九月七日死去七十六歳

廣左

次郎太夫　生國同所

大橋現在

天正十八年小田原陣に伺ふ

文禄元年名護屋陣に伺ふ

慶長九年関原陣に伺ふ

同十九年元和元年大坂表へ

御陣に伺ふ

右遠境殿へ参り

正時

儀左衛門　生国武州
右流儀殿
将軍家ニ仕たてまつる二十八歳
みくに死

祇寛

次郎左衛門　生国城州
寛永十年四月十五日

将軍家となる
同十二年十二月廿八日父が家督を
つぎ大御番をつとむ

廣義

儀左衛門　生国同州
実八幡宮十郎子なり
将軍家となる
きこえたまつる養父正時

本国に帰りいくさ相手集人正之介
加藤勘下総守の子大給の末子なり
三子持右兼つ所治人にもあり伊豆にも
しき秀吉小源氏と退治の時持兼つ
信勢の兼国者なりて箱根山を
こし山中にいくさわく首級をとる
かうべ
大将現ありきて相手をつかなめ
本国と号する篠原陣 関原陣 大坂

大坂陣 ぶ
大坂陣 ぶ
籠城敵こつたなり大坂方陣より
得手
寛永元年三月死二年の業

盛近
長三郎
文禄四年

右法院殿と申す
寿長十八年三月死二年二歳

盛正

久方殿　生国武州
元和四年
右法院殿と申す
同九年
将軍御供仕り大御麦を

清之

盛森

佐方殿　生国同州
元和九年
右法院殿と申す
将軍御供仕り

盛常

平方殿　生国同州

寛永十六年
将軍家と称し奉る

盛当（もりひさ）

右左衛門　生国同所
右法院殿
将軍家と称し奉る

家紋（いへのもん）上（あげ）胡蝶（ちょう）

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan